

北っ子 敷島北小学校だより

令和5年11月30日

文責 学校長 増坪広夫

グループ活動×校外活動

小学校では、様々な場面で子供たちがグループになって活動を行います。代表的なものがクラスでの「生活班」と呼ばれるものです。4～6人ぐらい男女混合で編成し、多くの学級がこの班をもとに集団での自治活動に取り組んでいます。係活動であったり、掃除であったり、校外学習でのグループ学習であったりと、色々な場面でこのグループをもとに活動をしています。



することが決められた班活動とは別にグループをつくる場面もあります。例えば、校外活動に行ったときに「お昼を食べる」などといった場合です。

「これからお弁当の時間にします」「自由にグループをつくって食べましょう」

「独りぼっちの人がでないように声をかけあってくださいね」

どこにでもある光景ですが、お弁当を食べるわずかな時間であっても「誰と食べるのか」は子ども達にとっては大きな関心事となります。



あるタイプの子は、自由なグループをつくる時、その時々でそのメンバーが替わります。たまたま近くに居合わせた友達と「一緒に食べよう」と誘ってグループをつくるタイプです。あまり同じメンバーに固執しないのが特徴で、このタイプは「誰と食べるか」より「どこで食べるか」の方が関心事になっているのかもしれませんが。もう一つのタイプは「どこで食べるか」よりも断然「誰と食べるか」を気にするタイプです。友達関係に敏感なのですが、その

人間関係に逆に縛られて身動きがうまくとれなくなってしまうこともありがちです。

学校生活の楽しさは、時として友達関係の安定のもとにあります。友達関係が不安定だと学校生活のすべてがつまらなく見えてしまうこともあるかもしれません。本校の子どもたちには、小学校という時期において良いともだち関係をたくさん築いてほしいと願っています。



昔読んだ教育書に、こんな言葉が載っていました。

よい友情とは、対等な関係のことで。

やりたいことを一緒に決められる。

でも平等に分かち合うことができる。

お互いに信頼しあえる。

どんな問題も力を出し合って一緒にのりこえられる。

いいときも悪いときも、頼りあえる。

締めくくりに、こんな言葉が載っていました。

それぞれが、ほかに友達を持っている。

個別懇談が始まります

12月4日(月)から個別懇談が始まります。「子どもたちの健やかな成長の様子を担任と保護者で共通理解を図る」というのが目的となります。短い時間ですが有意義な時間になりますようご協力をお願いします。学校で過ごす時間だけでなく、家庭にあっても、勉強の理解度、性格や行動、友だち関係、こころの問題、障害等の疑いなど心配なことがありましたら、ぜひこの個別懇談の機会にご相談ください。



相談の内容によっては、本校のスクールカウンセラーはもちろんですが、甲斐市や県の相談窓口やカウンセラー等を御紹介できます。相談には予約が必要となりますが基本経費はかかりません。

相談支援センター開設

文部科学省は今年1月に「通常学級に発達障害のある児童生徒が8.8%在籍していると推定される」との調査結果を発表しました。あわせて「該当者のうち約7割が学校での支援対象から漏れている」という実態についても明らかにしました。本校で換算すると単純計算ではありますが16人相当となります。

いじめ・不登校ホットライン(24時間子供SOSダイヤル)
※園児から高校生までのお子さん、またはその保護者が対象です

0120-0-78310 (24時間365日・通話料無料)
055-263-3711 (24時間365日)

○匿名による相談ができます。 ○専門の相談員が、一緒に考えます。
○学校生活における相談を受けます。 ○ヤングケアラーに関わる相談を受けます。
○お悩みのことがありましたら、お気軽に御相談ください。

子供の発達相談 平日 9:00~17:00 ※園児から高校生までのお子さんが対象です

055-263-4606

○発達の遅れやその心配のあるお子さんについての相談を受けます。
○お子さんの就学や進学、学校生活に関わる支援についての相談を受けます。
○苦手な学習や活動等への関わり方などの相談を受けます。

「教育相談」というと敷居が高いイメージを持たれるかもしれませんが、決してそんなことはありません。複数の相談窓口を上手に利用されているご家庭もあります。専門的な立場からお話をしていただけるだけではなく、私達教師も「その子に対して、どのように指導するのが効果的なのか」を学ばせてもらう機会にもなっています。

以前、相談支援センターのチーフスクールカウンセラーのお話を聞く機会がありました。児童相談所に長く勤められた経験豊富な先生のお話は「どの子も安心して学び育つための支援はどうあるべきか」というテーマでどの話題も心に響くものばかりでした。

特に印象に残ったのは、「不登校とは多様な要因・背景により結果として不登校状態になっているということであり、その行為を『問題行動』と判断してはいけない」「不登校支援のゴールは狭い意味での学校復帰ではなく、最終的には『社会的自立』にある」という内容でした。

学業不振や登校しぶりだけではなく、お子さんの心配ごとはどうぞお聞かせください。一緒により良い成長につながるような話が出来れば幸いです。

学業不振や登校しぶりだけではなく、お子さんの心配ごとはどうぞお聞かせください。一緒により良い成長につながるような話が出来れば幸いです。

「フロリダ」ってなんのことかわかりますか？

以前勤務していた学校の防犯教室(ネット問題)で、講師の先生からこんな質問がありました。

これは「アメリカ合衆国の州の一つ」ではなく、ネット言葉で「フロにはいるので離脱(りだつ)する」という意味だそうです。他にも「〇〇しか勝たん」「ぴえん」「草超えて森」「397」などが出題されましたが、私はどれも正解することができませんでした。

子どもたちがよく発する言葉から、その学校のネット事情が分かります。ネットゲームが抱える問題は言うまでもありませんが、敷島北小の子が悪い深みにはまっていないことを願います。バーチャルな世界に浸ることで、モノやお金の価値が麻痺してしまうことがとても心配です。冬休みなどは自由な時間も増えるので、こうした危うさも大人の使命として、くりかえし伝えたいものです。